



鳥取市総合教育センターだより

第3号 令和8年9月25日発行

〒680-0053
鳥取市寺町 150 番地
TEL 0857-36-6060
FAX 0857-26-3878
E-mail
kyo-center@city.tottori.lg.jp

「始めるから始まる」

「始めるから始まる」という言葉は、ドイツの哲学者フリードリヒ・ニーチェの言葉として広く知られています。何事も、初めは危険だと考え、一步踏み出すことは勇気のいることです。しかし、とにかく始めなければ始まらないのです。「あれこれ思い悩んだり考えたりする前に、まず行動を起こして始めることによって、何かが動き出し始まる」という、勇気を与える名言として親しまれています。

学校は、長い夏休みが終わり、前期後半となっています。修学旅行、運動会等多くの行事も行われます。4月より新しい学年が始まり、ひたすら走り続けてきて、ふと振り返ると、「あれ、こんなはずじゃなかった。」と感じたり、なんだか疲れている自分に気づいたりする時期でもあります。

子どものストレス反応は様々で、その表現の仕方も一人ひとり違います。中には、自分の思いを自分の言葉でうまく表現できない子もいます。子どもが学校に行くことを渋る時、必要以上に問い詰めたり、焦らせたりすることは、かえって問題をこじらせる場合があります。学校に行けないのは、「意思の弱さ」や「怠け」ではなく、現在の自分の気持ちと、現在の自分を取り巻く環境とのミスマッチが起こっているわけです。言葉にならない漠然とした不安の中でもがいている状態なので、「自然な反応」であることを理解する必要があると思います。

不登校経験者が語る漠然とした不安というのは、「学校に行けないこと」よりも「行けない自分を受け入れてくれる場所や人がどこにもない」という感覚です。そんな中、関わる大人が社会通念上一般論で、「学習が遅れる」とか「進学に影響する」といった、将来を不安にさせる言葉がけを続けることは、とても教育効果があるとは思えません。「正しさ」よりも「関係性」を大切に、子どもが安心して話せる環境を整えることが第一に求められます。大人の理解ある柔らかな眼差しは、どんな理屈よりも、子どもに安心な心のよりどころとなっていくことでしょう。

とはいえ、不登校の子を支援していると、焦ったり不安になったりすることも当然のことと考えます。子どもを支援する時、最大の支援は「待つこと」といわれています。しかし、わかっているにしても、いつまで待ったらいいものかと思い、ついつい子どもを追い込むような言葉が出たりする時があります。そんな時、一人で悩まれることなく、鳥取市総合教育センターにも相談していただき、一緒に考えていけたらと考えています。当センターでは、相談窓口や大人の学びの場を整えることが必要と考え、この度不登校に関する基本的な考え方や校内外の支援体制、各種相談窓口等をまとめた「鳥取市児童生徒の安心できる居場所づくり構想」リーフレットを作成いたしました。今後、ホームページ等でもご覧いただけるようにしますので、是非ご活用ください。

人は、何度も立ち止まり振り返り、一歩ずつ少しずつ前へ進んでいきます。決して一人では前へ進めないのです。誰かに相談したり力を借りたりして、生きていくわけです。しかし、最終的には、誰かにやってもらうのではなく、自分の力で「始めるから始まる」のだと思います。私たち大人は、社会総がかりで、子どもが主体的に何度でも人生を「始める」ことができるよう、環境を整えていくことが必要だと考えます。

鳥取市総合教育センター 所長 狩野 司



研修企画係

自ら問いをもち、主体的に「研修に臨む」

今年度も鳥取市教育委員会主催の基本研修・職務研修に多くの先生方にご参加いただき、現段階で約8割の研修を無事に終えることができました。研修の企画にあたり私たちが意識しているのは、受講者自身が「問い」をもって研修に臨むことです。そのため本センターでは、講義や演習に入る前に受講者同士で情報共有を行う時間を設けています。日頃の取り組みを振り返りながら対話することで、一人ひとりが自らの「問い」を明確にして受講できるようにするためです。研修を通じて、先生方が「学び続ける教師」であるよう、今後もより充実した研修の企画・運営に努めてまいります。

自ら問いをもち

「16年目研修①」～自己のキャリア形成を考えよう～

5月29日開催の「16年目研修①」では6名の元校長先生を講師に迎え、お話を聞きました。生徒指導や音楽指導、学校運営など様々な視点のお話を聞くことで、受講者は自己の現状と将来のビジョンについて考えることができました。

振り返りシート「実践したい My アイデア」より

- 今回の研修では、それぞれ異なる立場や経験をもつ先生方のお話を伺う中で、改めて教育は「人との関わり」の営みであることを実感しました。特に、「関わること」と「捉えること」の違いや、学校全体を見渡して人を育てていく視点についてのお話は、自分自身の日々の実践を振り返る貴重なきっかけとなりました。
- 6名の元校長先生はそれぞれが異なるご経験をおもちで、さまざまな視点、考え方に触れることができ、学びある研修となりました。中には今自分自身も疑問に思っていることを、同じように疑問に感じられているという話を聞くことができ、自分の考えも間違いではないのだと自信に繋がりました。



主体的に学ぶ

学習サークル「みりょくんとてっいていぬ」

今年度より、現場の先生方が主体的に学び合える場として、ワークショップ型学習サークル「みりょくんとてっいていぬ」を月1回開催しています。日頃の疑問や実践を語り合い、互いに高め合うことで「学び続ける教師」をサポートする取り組みです。

これまでに4回開催し、少人数だからこそじっくり深まる対話の時間を重ねてきました。中には全回参加の先生もいます。

途中からのご参加や、お試しでのご参加も大歓迎です。ぜひ一度、気軽にのぞいてみませんか？ 皆さまのご参加を心よりお待ちしております。



校種間連携

幼保小中連携研修

8月18日、県立福祉人材研修センターにて島根大学の原広治名誉教授を講師にお迎えし、「幼保小中連携研修」を開催しました。

研修では特別支援教育の視点から、発達段階に応じた子どもの理解や発達障害との関連、適切な支援・指導について学びを深めました。また、講師の実体験に基づく講話を通して、「支援とは、支援する側の『気づき』から始まり、相手の思いに寄り添っているかどうか大切である」という本質を改めて確認しました。

後半の意見交換では、幼稚園・保育園・小学校・中学校の先生方が一堂に会し、日頃子どもへの関わりや工夫について熱心に語り合い、校種の枠を超えた貴重な学び合いの場となりました。



安心できる居場所づくりと学びの機会の確保

フリースクールとの連携

現在、鳥取市内には出席扱いを認めることができる民間施設（フリースクール）が5か所あり、不登校児童生徒にとって学びの機会が確保でき、安心して過ごすことができる居場所にもなっています。

名称	住所・連絡先	特徴
フリースクール 「ちゃれすくーる」	鳥取市緑ヶ丘3丁目21-59 TEL 0857-26-9830	・ボルダリング、トランポリン、 ジムトレなどの運動
教育支援センター 「すてっぴ」	(立川教室) 鳥取市立川町5丁目235-1 (あすなろ教室) 鳥取市永楽温泉町385 TEL 0857-51-0165	・地域子育て支援センター併設 ・金曜日は自炊活動あり ・月1回程度の多様なイベント
牧場フリースクール 「まなび〜馬」	(午前:空山ポニー牧場) 鳥取市越路大谷 752-1 (午後:自由学舎ハーモニイシドレ) 鳥取市吉成2丁目 246-4 TEL 0858-72-2468	・ポニーとのふれあい ・体験活動(キャンプなど) ・不定期でクッキング活動
フリースクール 「ほとり」	鳥取市南吉方3丁目215番地 TEL 0857-32-8482	・1日の半分は学習 ・月2回の調理活動 ・地域食堂併設 ・キャリア学習、プログラミング
森の子がっこう 「いっぽ」	鳥取市中砂見936(旧神戸小学校内) TEL 080-8733-9637	・自然体験 ・動物とのふれあい

鳥取市フリースクール連絡協議会

鳥取市教育委員会では、フリースクールと学校及び教育委員会の連携を深め、児童生徒への支援がより充実したものとなることをめざして、連絡協議会を開催しています。

今年度も、7月9日(木)に鳥取市総合教育センターにて、第1回鳥取市フリースクール連絡協議会を行いました。5つのフリースクールの代表者が集まり、情報共有や協議をしました。

★今回の協議テーマ「保護者の思いやニーズに対する寄り添い方」

[保護者とのつながり方]

- ・定期的に面談を行い、保護者の思いを把握している。
- ・SNSを活用した情報共有を工夫している。
- ・個別の支援計画を作成し、保護者と共有している。
- ・テーマを設定して、保護者会を開催している。
- ・参観日や保護者研修会の機会を設けている。
- ・個人の連絡ノートを作成し、日々やりとりをしている。 など

[保護者の思い]

- ・学校内になかなか居場所がつかれないので、学校外にも居場所がほしい。
- ・思いや伝えたいことを整理するために、学校とのつなぎ役になってほしい。
- ・進路や受験に関する情報提供をしてほしい。 など



学校とフリースクール、鳥取市教育委員会が、方向性をそろえた連携を図り、児童生徒にとって安心できる居場所が増えるように、今後も取り組んでいきます。